

語り部の願い

終戦から68年。広島市の広島平和記念資料館で被爆体験を来館者に話す山本定男さん(82)は、1945年当時は中学2年生で、爆心地から2・5キロのところにいた。

× ×

8月6日当日、2年生は練兵場にある芋畑で草刈りをする予定で、300人ほどが集まっていた。

朝、B29(爆撃機)が何機か見えました。偵察に来たのかなと、最初はあまり気にしていませんでした。でも、動きがおかしいなあ、と思ってたら、いきなり爆発が起きた。雷がまとめて落ちると

広島で被爆した山本定男さん

あんな感じになるんかね、ドーンとかポーンという言葉で表現できないすごい爆音で、気が付いたら風で飛ばされ、左のほおと首の後ろが痛かった。やけどを負っていた。ピンク色の入道雲のようなものが空に上がり、恐ろしかったです。



原爆ドームの模型がある広島平和記念資料館＝広島市中区

戦争は人類最大の過ち

死んでいった後輩たちの無念さ

後のことは、よう覚えないうです。たまたま作業をしていた場所の連いで、生死が分かれた。死んでいった1年生約300人は爆後輩たちの無念さを感じる手伝いをしている。残り残った私たちのつらさも大変なものだった。戦争は人類最大の過ち。それなのに、いまだに紛争が起きている。悲惨な思いをした私たちが何とかやめさせないと。でも、語り部も高齢化のため少なくなってきた。戦争体験を風化させてはいけない。子や孫の世代のために、これからも大切なことを話し続けていきたいです。



二度と戦争を起さずにはいけない」と話す山本定男さん

広島原爆 1945年8月6日午前8時15分、米軍のB29爆撃機が人類史上初めてウラン型原子爆弾「リトルボーイ」を広島市に投下、爆風や火災で市中心部は壊滅した。当時の人口約35万人のうち、同年末までに約14万人が死亡した。

全国には自らの戦争体験を話し、平和のありがたさを訴える語り部がいる。広島原爆と東京大空襲を伝え続ける2人に、次世代に向けた思いを聞いた。

× ×

「全国には自らの戦争体験を話し、平和のありがたさを訴える語り部がいる。広島原爆と東京大空襲を伝え続ける2人に、次世代に向けた思いを聞いた。」

「次回は8日に掲載します」

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

1. 被爆体験を話す山本さんは、当時何年生で、爆心地から何キロのところにいましたか。

2. 同じ学校の1年生は、原爆が投下されたとき、どこで何をしていましたか。

3. 原爆の投下により、その年末までに亡くなった人は、およそ何万人でしたか。

4. 山本さんが、子や孫の世代のために話していききたい大切なこととは、どんなことですか。

学校名() 名前()